

科目責任者 大立 智砂子、梅川 純代

授業担当者 A・C組：大立 智砂子、B組：梅川 純代

■教育目的（各クラス共通）

中国語の入門レベルを終えた人のための、基礎レベルの授業です。このレベルでは、正確な発音の定着と一通りの基本文法の完成を目指し、簡単な日常会話ができる程度の能力を養います。特に日本と異なる「簡体字」、独特のローマ字表記である「ピンイン」、独特の音の高低がある「声調」は、何度も繰り返し訓練し、この段階でしっかりマスターする必要があります。

■学習到達目標（各クラス共通）

- 1、簡体字とピンインの理解を確実にし、正確な発音を定着させる。
- 2、「態」「補語」など各種の表現を学び、一通りの基礎文法を学び終える。
- 3、基礎レベルの中国語を話し、聞き、読み、書けるようにする。

■授業内容

A・C組 大立 智砂子

- 中国語の発音を繰り返し訓練する。中国語の単語を覚える。
- 声調を正しく理解し、声調による単語の区別ができるよう繰り返し練習する。
- 中国語の基礎文法を学び、簡単な文章を理解する。
- 中国語の発音を聞き、ピンインを書くことができるよう練習する。またピンインを見て、簡体字中国語に改められるよう練習する。
- 中国文化に触れ、日本との関わりについて学習する。

準備学習（予習・復習）：予習：次の課の本文、例文を訳し、練習問題を解いておく。／復習：単語（漢字、ピンイン、意味）を覚え、文法事項を確認する。

課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法：期末試験（80％）、小テスト（20％）で総合評価する。

教科書：『（新訂）学ビデ時二之ヲ習フー中国語入門』 相原 茂、郭 雲輝、保阪 律子 共著（好文出版）

B組 梅川 純代

教科書の後半を学習します。

No 1 ～ 3 助動詞、完了態など

No 4 ～ 6 結果補語、比較表現、可能補語など

No 7 ～ 9 程度補語、経験態、数量補語など

No 10 ～ 12 使役表現、存現文、進行態など

No 13 ～ 15 持続態、方向補語、受け身表現、処置文など

準備学習（予習・復習）：予習：教科書付属のCDを聴く。／復習：勉強した章の本文・会話文の分解を確認する。CDを聞いて暗唱の練習をする。

課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法：期末試験（60％）、小テスト（40％）で総合評価する。

教科書：前期と同じ、『中日辞典』（小学館）[任意]